

学校名	東温市立拝志小学校
担当教員名	

活動のテーマ	地域と連携した防災学習の推進と教職員研修の充実
主な教科領域等	教科領域（全教科）
アプローチ	※該当するものに□をつけてください（複数可） <input type="checkbox"/> 地域連携 <input type="checkbox"/> 避難訓練・ <input type="checkbox"/> 避難所運営 <input type="checkbox"/> 専門家の活用 <input type="checkbox"/> 体験学習 <input type="checkbox"/> 学校間・地域間交流 <input type="checkbox"/> 教科連携 <input type="checkbox"/> 地域発信 <input type="checkbox"/> カリキュラム開発
活動に参加した児童生徒数	（全校児童 73 名、内 第 4 学年 12 人、）（複数可）
活動に携わった教員数	（16）人
活動に参加した地域住民・保護者等の人数	（50）人 【 <input type="checkbox"/> 保護者・ <input type="checkbox"/> 地域住民・ <input type="checkbox"/> その他（東温市消防本部、東温市役所、DCM ダイキ）】 ※児童生徒・教員以外で活動に参加する人の区分に□をつけ、人数をお書きください。（複数可）
実践期間	西暦 2024 年 4 月 8 日～ 西暦 2025 年 2 月 28 日
想定した災害	※該当するものに□をつけてください（複数可）。 <input type="checkbox"/> 地震 <input type="checkbox"/> 津波 <input type="checkbox"/> 台風 <input type="checkbox"/> 洪水 <input type="checkbox"/> 河川氾濫 <input type="checkbox"/> 土砂 <input type="checkbox"/> その他（火災）

### 活動報告

#### 1) 活動の目的・ねらい

- ① 第 4 学年総合的な学習の時間「拝志っ子防災レンジャー」での年間カリキュラムを見直すとともに、ドローンを活用したプログラミング教育を通して、防災に対する知識、理解を深め、どうすれば自分の命を守り抜けるか考え、身近な人に防災の大切さを伝えようとする態度を育成する。
- ② 全教員で避難訓練実施計画を見直し、事前指導、事後指導を大切にした避難訓練にすることで、防災を自分事として捉え、どのようにリスクを下げられるかを児童、教職員全員で探究する。
- ③ 「防災を考える日」を設定し、異学年の防災学習に関する取組を紹介し合うとともに、専門家や地域の方との意見交換を通して、小学生の自分たちにできることを考え、地域に発信する。

#### 2) 実践内容・実践の流れ・スケジュール（※図表等を使用して分かりやすく記述してもよい）

実践① より効果的な地域連携、地域への発信ができるように年間カリキュラムを毎年見直し、改善している。

（R6 年度の改善点）

- ・児童と保護者が共に考えられるよう、参観日に外部講師を招いた防災教室を実施した。
- ・学習成果を自分たちの学級だけにとどめず、集会やポスター、校報で全校や地域に発信した。

実践② 年 3 回の地震避難訓練の内、児童に予告しない避難訓練の実施計画を見直し、より発災時に近い想定で訓練を行えるようにした。その際、職員研修を実施し、教職員がより自分事として真剣に訓練に臨めるようにした。

12 月	・研修主任が他校と避難訓練実施計画等について情報交換（階上小学校、東温市内の小・中学校） ・防災管理担当者（教頭）と研修主任で訓練内容を見直し
1 月 ～ 2 月	・慶應義塾大学環境情報学部の大木准教授監修の「実動訓練」を基に、教職員研修を実施。 ・避難訓練の事前指導と事後指導の内容を教職員間で共通理解を図った後、防災週間（1 月 27 日～2 月 7 日）を設定し、全校と学級それぞれで実施。

実践③ 防災週間の取組の一つとして、異学年、地域の方（消防、市役所、自主防災組織）との意見交流をした。その後避難所運営、応急処置、救急救命講習の体験活動を地域の方とともに行った。その様子を東温市の広報に取材してもらい、東温市内全体に情報発信した。

#### 【各学年発表テーマ】

- （3年生）社会：校内の防火設備、火災時の行動
- （4年生）総合：「防災レンジャー」で学んだこと
- （5年生）総合：ストレスを緩和するために
- （6年生）家庭：地域の一員として自分たちにできること



【「防災を考える日」の協議の様子】

### 3) 9月研修会の学びの中から自校の実践に活かしたこと。研修会を受けての自校の活動の変更・改善点。

昨年度まで（助成金を受ける前）の実践と今年度の実践で変わった点。助成金の活用で可能になったこと。

- 本校では H31 年度から第四学年の総合的な学習の時間で防災学習に取り組んできた。毎年よりよくなるよう、外部人材の活用や他教科との関連を図った年間カリキュラムに改善してきたが、持続可能かつ、より学校、地域全体に広がる防災教育になるにはどうすればよいか悩んできた。9月の研修を経て、それらの改善には教科横断的かつ学年を越えた防災教育を進めるために、教職員や地域全体で考える防災教育が重要であると強く感じた。改善の手立てとして、形骸化した避難訓練を見直し、全教員で研修を行った。「自分も共にやる」防災教育の視点を培う第一歩としたい。



- また、3～6年の異学年での意見交流会を実施し、そこに地域の大人にも参加してもらうことで、児童が多様な考えに触れ、より考えを深められるように工夫した。
- 助成金では①ドローンやクロスロードゲームなど、防災学習を充実させるための教材、②発災時に必要な道具（拡声器、ライト等）を購入した。①は4年生での防災学習をより充実させるものとなる。②は避難訓練実施計画を見直すために他校と情報交換を行った際に、現段階では発災した時に命を守るための道具が十分でないということに気付いたため、購入した。これらを避難訓練で使用し、訓練実施後に教職員で振り返り、さらに必要なものを今後検討していく。



### 4) 実践の成果

#### ①減災(防災)教育活動・プログラムの改善の視点から

実践① 以前は出前講座と調べ学習を経て、児童が学んだことを新聞やポスターなどにして発信する活動が多かったが、今年度はそれらの体験を保護者や地域の方と共に学ぶ機会を設定した。多様な立場や考えに触れることで、双方向性のある情報発信ができ、各訓練に主体的に取り組めた。

実践② 避難訓練を軸とした防災教育を考えるのは、大変有意義であることに気付いた。今までは真剣に取り組んでいるつもりでも、学校安全管理者に任せ、どこか自分事として捉え切れていない教員が多かった。しかし、他校での取組の様子を紹介したり、全教員で研修を行ったりすることで、より具体的に発災時の想定をイメージし、命をどう守るかについての共通理解を図ることができた。

実践③ 「防災を考える日」を設定することで、「防災学習は4年生でするもの」という意識を、「学年をまたいで継続的、縦断的に学習するもの」という視点を児童、教員でもつことができた。これを持続可能なものにするために、気仙沼市教育委員会が作成した「防災学習シート」を参考に、本校の防災教育マトリックス（6年間を通した防災年間指導計画）を作成中である。

#### ②児童生徒にとって具体的にどのような学び（変容）があり、どのような力（資質・能力・態度）を身につけたか。

実践① 第4学年は2学期の社会科「自然災害からくらしを守る」の学習を軸として、1学期に拝志地区の災害の歴史を学ぶところからスタートした。風水害→地震災害→他の自然災害について学ぶ学習の中で、地域の方や専門家の方の話を聞いたり、見学に行ったりする体験活動を通して、より自分事として防災学習を進めることができた。また今年度、多様な価値観に触れる機会を設定することで、単級学級の中だけでは出てこないような意見に触れ、学びを深めることができた。「拝志っ子防災レンジャー」として、自分の命や大切な人の命を守るためにどう行動すればいいか、どう備えたらいいかを他者に伝えたいという思いを高めることができた。

実践② 教職員研修を通して、教師自身が何を児童に事前指導すればよいか明確になり、また教師個人に指導内容を任せるのではなく、指導に際しての共通の教材（動画、「写真で危険探し」、避難訓練振り返りカード）を作成したことで、全学年で発達段階に応じて防災学習に対する意識が高まった。

実践③ 2週間の防災週間では、徐々に防災意識が高まるよう、段階的に3つの企画を行った。第一弾となる防災集会では、教職員全員で、防災に関する授業を実施した。慶應大学 SFC 防災社会デザイン研究室の「写真で危険さがし授業スライド」や「じしんダンゴムシ体操」を活用したり、避難の際の大事なポイントの実演や防災クイズなどを行ったりした。誰か一人が授業を行うのではなく、全教職員が一人一役を担って、真剣に児童に防災の大切さを指導した。全教職員で実



施したことで、教職員研修で共通理解したことを確かめながら、また教員も防災教育をより自分事として捉えながら全校に指導ができた。

第二弾では、予告なしの避難訓練を行った。休み時間の避難訓練であることや、放送機器が使えない中での訓練であること、地震でガラスなどが飛散する音などが入った緊急地震速報であることなどが、今までと違う内容であった。児童にとっては突然の訓練であったが、どの児童も「今月の歌」として歌っている「じしんだんゴム体操」や、防災集会での事前指導を思い出して、落ち着いて対応行動を取ることができていた。避難訓練後は全校共通の振り返りシートを利用し、事後指導を行った。また、そのワークシートを家庭に持ち帰り、防災集会や避難訓練で感じたこと、学んだことなどを保護者に伝えるように指導した。保護者からのコメントが追加されたワークシートは後日全教職員で閲覧した。担当学年以外の児童の感想を読むことで、発達段階に応じてどのような防災学習をすればよいかの参考になった。また、児童、保護者の感想を学校便りに掲載して、家庭、地域に配付し、地域の防災力が高まるよう、啓発を行った。



第三弾では、学校運営協議会、東温市消防本部、東温市役所危機管理課の方を招いて、3～6年生児童と「防災を考える日」を実施した。1時間目の前半は、児童が各学年で学んだ防災の取組を、クイズやプレゼンテーションソフトなどを利用して発表した。異学年の学びがよく分かる内容であった。後半は「拝志地区の防災力を高めるためには、どうすればいいだろう」というテーマで協議を行った。事前に児童が準備したアイデアカードを、「とても重要」「重要」「すぐができる」「時間が掛かる」という座標軸を用いて話し合った。児童だけでなく、地域の方や防災の専門家を交えて話し合うことで、児童は自分の考えを整理しながら、テーマに沿って考えを深めることができた。2時間目は、避難所設営体験や救急救命講習を実施した。4年生以上の児童は以前体験した学習であるので、そのことを思い出しながら異学年の友達と楽しく活動し、災害時に必要な行動や自分にできることを考え、実践することができた。また、この取組を、東温市の広報に取材してもらい、SNS や広報誌で広く地域に発信した。



### ③教師や保護者、地域、関係機関等（児童生徒以外）の視点から

〈教師の視点〉

他校の訓練実施計画や、実動訓練の動画を視聴することで、訓練実施前に発災時の状況を想像することができた。そのことで、自分の学級ではどのようなことが起こるのかを具体的に考えることにつながり、より真剣に訓練に臨もうとする意欲が高まった。また、「防災を考える日」を設定することで、どの学習が防災学習と結びつくのかを教科横断的に考えることにつながった。

〈保護者の視点（参観日の感想から）〉

- ・災害への備えは大切だと分かっているが、なかなか行動に移すことが難しい。子どもと一緒に考える機会があることで、家庭でも話題にすることができ、また店でも防災グッズについて一緒に考えることができた。

- ・学校ではこのような防災学習をしているのかと知った。家で災害への備えについて話す機会がなかったので、これから少しずつ家族で話して備えるようにしたい。

#### 〈地域、関係者の視点〉

- ・このように学校で防災について取り組んでくれていることがありがたい。消防としても協力できることを一緒に取り組んでいきたい。(消防署職員)
- ・普段は地域の自主防災組織の方対象に出前講座を行うことが多い。小学校のころから防災教育に触れることはとてもよいことだと思う。また、講話だけでなく、小学生と意見を交流できるのも貴重な機会だと思う。(市役所職員)
- ・地域の災害の歴史を小学生が学んでくれるのはうれしい。これからの地域の防災を一緒に考える機会をもてればと思う。(地域の方)

### 5) 工夫した点、実践の特徴・特筆すべき点

#### 〈工夫点〉

- 防災教育に地域人材をどう活用するかを工夫した。
- 避難訓練以外で学校全体で防災について考える機会を設定した。
- 持続可能な防災教育を行うために、学年縦断的な防災年間計画を作成中である。
- 地域、専門機関と連携した活動を実施した。
- 来年度は防災の視点での地域連携(発災時の安否確認にメール連絡網を活用)を実践予定。



安否確認メールの動作確認の研修

### 6) 実践から得られた教訓や課題と次年度以降の実践の改善に向けた方策や展望

- 担当者が変わっても持続可能な防災教育の在り方を考えていく必要がある。そのためには、授業や避難訓練の事前、事後指導で使える教材等のパッケージを作成し、それをその都度改良していくとよい。そうすることで、小学校6年間での本校独自の防災教育を実施していけると考える。
- 地域連携、異校種間連携をさらに強めていく必要を感じる。具体的には、学校運営協議会の熟議のテーマを防災とし、そこに児童も加わって協議する。小学生の考えと大人の考えを互いに交流させることで、新たな気付きが生まれると考えられる。それを基に、参観日での避難訓練を実施するなど、様々な機関と連携した訓練を定期的実施したい。また、本校のある東温市重信地区には小学校が4校あり、それらの児童が一つの中学校に進学する。その内の1校は来年度「東温市救命プロジェクト」の地域モデル校である。それぞれが単独で研究を進めるのではなく、各主任会等で情報を共有しながら、市全体で防災教育を推進できるよう、来年度以降連携を図っていきたい。

### 7) その他(※特にあれば記述)

#### (参考資料)

- 4年生 総合的な学習の時間年間指導計画・・・今年度改善した点を加筆修正した。
- 避難訓練実施計画(休み時間)・・・他校の避難訓練実施計画を参考に、改善した点を朱書きした。
- 「防災を考える日」の協議内容
- 避難訓練振り返りカード
- 東温市広報誌「広報とうおん」
- 学校だより(一部抜粋)



# 3 学期避難訓練実施計画（予告なし）

東温市立拝志小学校

1 日 時 令和7年2月4日（火） 10:18～10:35 ※ 雨天時も実施

## 2 ねらい

- 休憩時の地震発生において、職員・児童が状況に即して迅速に行動し、安全に避難できる態度や能力を養う。
- 児童は、担任が側にいないときに自ら判断して避難行動をとり、放送の指示を聞いて速やかに避難場所へ移動できるようにする。
- 訓練を通して防災意識を高める。

児童合言葉 <p>①おさない・②かけださない・③しゃべらない・④もどらない・⑤ちかよらない (危険を知らせる話ましてもよい)</p>
教職員合言葉 <p>訓練は本番のつもりで本番は訓練のつもりで (災害発生時だと思って真剣に、緊張感を持って行う。)</p>

## 3 想 定

- ・ 業間に、緊急地震速報が流れる。その後、震度5の大きな地震が起こる。
- ・ 一度地震がおさまるが、余震によりさらに窓ガラスが破損したり、電灯が落下したりする恐れがあると判断し、危険を回避するために避難をする。
- ・ 児童の所在が不明な状況下で、児童の安全確保及び人員把握を行う。

## 4 事前指導 ※ 今回は予告なしで行います。

(1) 災害時の対応の仕方を具体的に指導する。

ア 地震時における避難の仕方についての指導

携帯からの緊急地震速報への音慣れ、頭を守る場所への移動、猿・ダンゴムシのポーズ、余震があることなど

イ 自他の生命の尊さについての指導

ウ 通報・連絡は最後まで静かに聞く態度の指導

※いつ、どこで、何をしても、その場所に腰を下ろして地震速報やその後の指示を静かに聞こうとする意識を持たせる。

(2) 避難方法・避難経路・集合場所の確認をする。

ア ○おさない・○かけださない・○しゃべらない・○もどらない・○ちかよらない

(危険を知らせる話ましてもよい)

イ 教員の指示、放送の指示に従って行動する。

ウ 身近な物で頭部を保護し避難する。

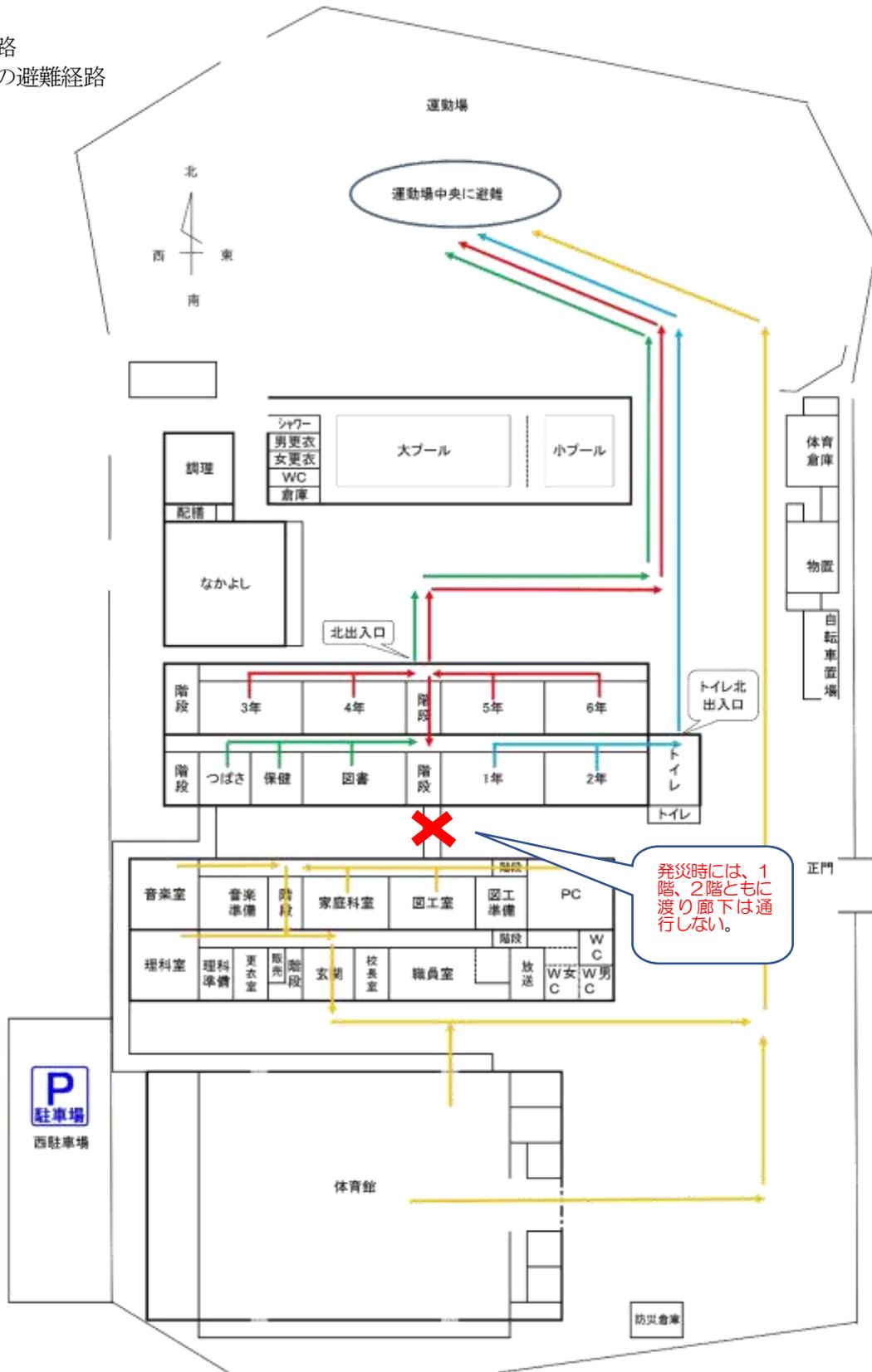
エ 校舎の中は早歩きで、校舎の外に出たら駆け足で避難する。

オ 集合場所は運動場中央、学年ごとに整列する。(集会の隊形でなくてよい。)

※ 児童の実態に合わせ、学級でショート訓練を実施し、対応行動・避難経路の確認を行う。

5 避難経路

(1) 通常の避難経路



(2) その他

- ア 特別教室の児童は、授業者の指示に従って退避する。
- イ 保健室の児童は、養護教諭が退避させる。

(3) 教職員の配置

- ア 教職員は担当場所で待機し、避難指示の放送後、周辺の児童を集めて避難を先導する。
  - イ 教職員は児童が周辺に残っていないか確認しながら、誘導を呼び掛けつつ、運動場へ避難する。
- 教室：○○（1年）、○○（2年）、○○（3・4年）、○○（5・6年）、○○（つばさ）  
 保健室：○○、なかよしルーム：○○、うさぎ小屋周辺：○○、北校舎トイレ：○○  
 運動場：○○、体育館周辺：○○、配慮児童見守り：○○、○○

6 訓練の展開

時刻	時間	放送内容（本部より）及び指導内容	訓練行動等
10:18	10 秒	「ただいまより、緊急地震速報を利用した避難訓練を開始します。」(2回繰り返す)	そのままの姿勢で、静かに放送を聞く。
	60 秒	「訓練・訓練」 ＜実際の緊急地震速報を放送する＞ <b>地震対応訓練</b> 「ただいま大きな地震が発生。校舎が大きく揺れています。窓際や危険な所から離れ、すぐに安全な姿勢をとりなさい。」 1 回目緊急地震速報・・・60 秒	突然の放送に驚いて慌ててしまうと危険である。慌てないで落ち着くこと。 「まず低く 頭を守り 動かない」対応行動を速やかに取る。(無言) ※放送対応（教頭） ※緊急地震速報は2回
10:20	30 秒	2 回目緊急地震速報・・・30 秒	対応行動を継続する。
緊急地震速報が発報した場合は、学校危機対応本部を設置する。(設置場所は職員室)			
10:21	3 分	○ 地震の音がだんだんと収まっていく→揺れが収まったと判断し、教員は周囲の安全を確認。 ○ 停電のため、放送機器が使用できない。→教頭が拡声器で避難指示を出す。 「まだ余震が続きそうです。児童の皆さんは、近くにいる先生の指示に従い、黙って素早く運動場に避難しなさい。」	教職員は、周囲にいる児童から離れない。 教職員は周囲の安全を確認した後、周辺の児童を並ばせて、避難を呼び掛けながら先導して避難させる。 <u>可能な限り、身近なもので頭部を保護する。(帽子に限らない) ※取りに戻らない。</u>
～ 10:24	3 分	①避難訓練（運動場中央へ移動） 【教員】 ・周囲の児童の安全を見守る。 ・校舎内においては、避難経路（出入口）の確保を行う。 ・運動場中央付近に児童を集合、静かに待機させる。 ・集合した教員で待機を指示する。(学年ごとに) ②整列 ・担任が集合隊形の前に立つ。 ・他の教職員は、安全を確保し、移動補助をする。	【児童】 ・静かに、早歩きで移動する。 ・前の人倒れた場合は、手を挙げ大声で後ろの人に知らせる。 ・避難完了した児童から、学年毎に整列し、静かに腰を下ろして待つ。
～ 10:27	3 分	【人員の確認、報告(人員の異状の有無と出席報告・・・きびきび、はきはきと)】 学級担任→教頭(副本部長)→校長(本部長) ・学級担任 A「〇年〇組、全〇名。異状なし。」 B「〇年〇組、全〇名。△名の確認ができていません。検索の指示をお願いします。」 ・教頭「全校児童が、避難を完了しました。(不明児童〇名。探索を開始しています。)(現在、校内の状況を確認しています。)」	教職員の真剣できびきびとした行動や態度が児童の訓練に対する取組に結び付く。  ※ 児童の肩を押さえながら数え、漏れのないようにする。
～ 10:30	5 分 から 6 分	<b>検索訓練</b> 検索係 北校舎 1 階 (〇〇) 2 階 (〇〇) 南校舎 1・2 階 (〇〇) 体育館周辺 (〇〇) ※ 検索後、検索係は、副本部長(教頭)に報告する。 「検索箇所〇〇、異状なし。(〇〇で〇年児童〇名発見、体調等異状なし。)」 [副本部長(教頭)→本部長(校長)] 「(〇〇で〇年児童〇名発見、)全校児童全員の安全を確認しました。その他、異状を認めませんでした。」	検索係は、探索及び状況確認に取り掛かる。 児童の所在が不明な場合を想定して、「誰かいますか。」と声を出しながら確認する。特に、トイレの個室を確認する。 児童の所在の有無に加え施設の異常を確認し、教頭に報告する。

状況終了(～10:35)

講評(10:35～)・・・校長

7 訓練終了後の日程  
終了次第、第3校時

## 8 事後指導

- 反省を学級、学年ごとで実施する。
- 振り返りカードは家庭に持ち帰らせ、保護者の感想・意見等を回収後、学校便り等で取組を紹介する。

## 9 対応行動とは

- 最寄りの机の下など（落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所）に身を隠し、頭を守る姿勢を取る。周囲に机が無い場合は、安全な場所（広いスペース・柱の近くなど）に移動し、その場でダンゴムシのポーズをとり、揺れに備える。

## 10 雨天時の実施案

- 教頭の避難指示により、体育館に速やかに避難する。
- 教員の配置場所は晴天時と同じ。（運動場担当は学級園畑付近で待機）
- 訓練では理科室前の渡り廊下を通行する。（東側の渡り廊下は非構造部材なので通行しない。）

ひなぐんれん  
**避難訓練ふりかえりカード**

月 日 年 名まえ

地震が起きた時にいた場所

どのようにしてからだを守った？

（ことばや絵でかいてみよう！）

.....

.....

.....

どうして、それが安全だと感じたのかな？

.....

.....

ひなぐんれん お  
避難訓練を終えて、  
感想や反省点を書こう。

安全にからだを守れたかな？

（安全・少しあふない・とてもあふない）

.....

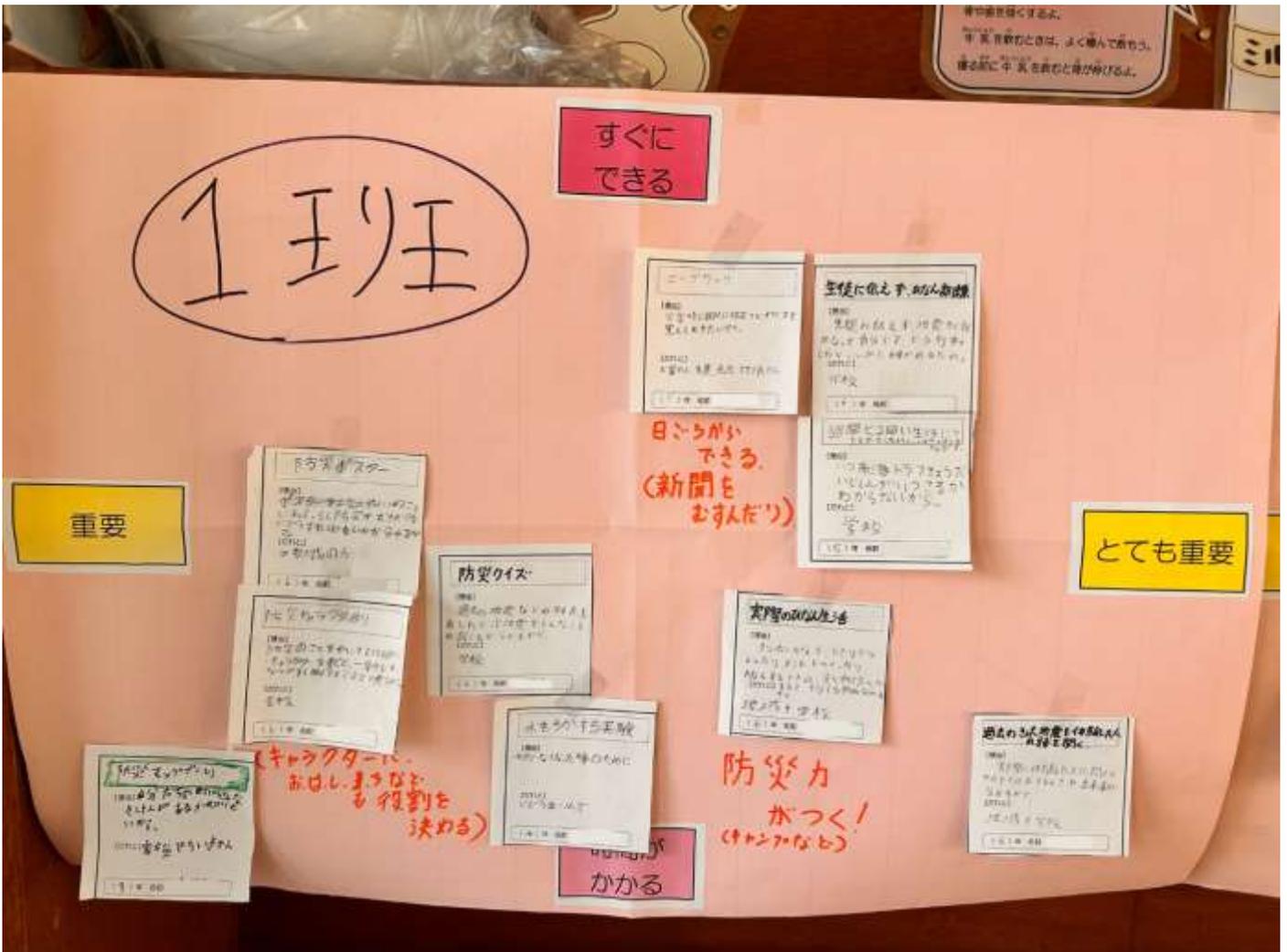
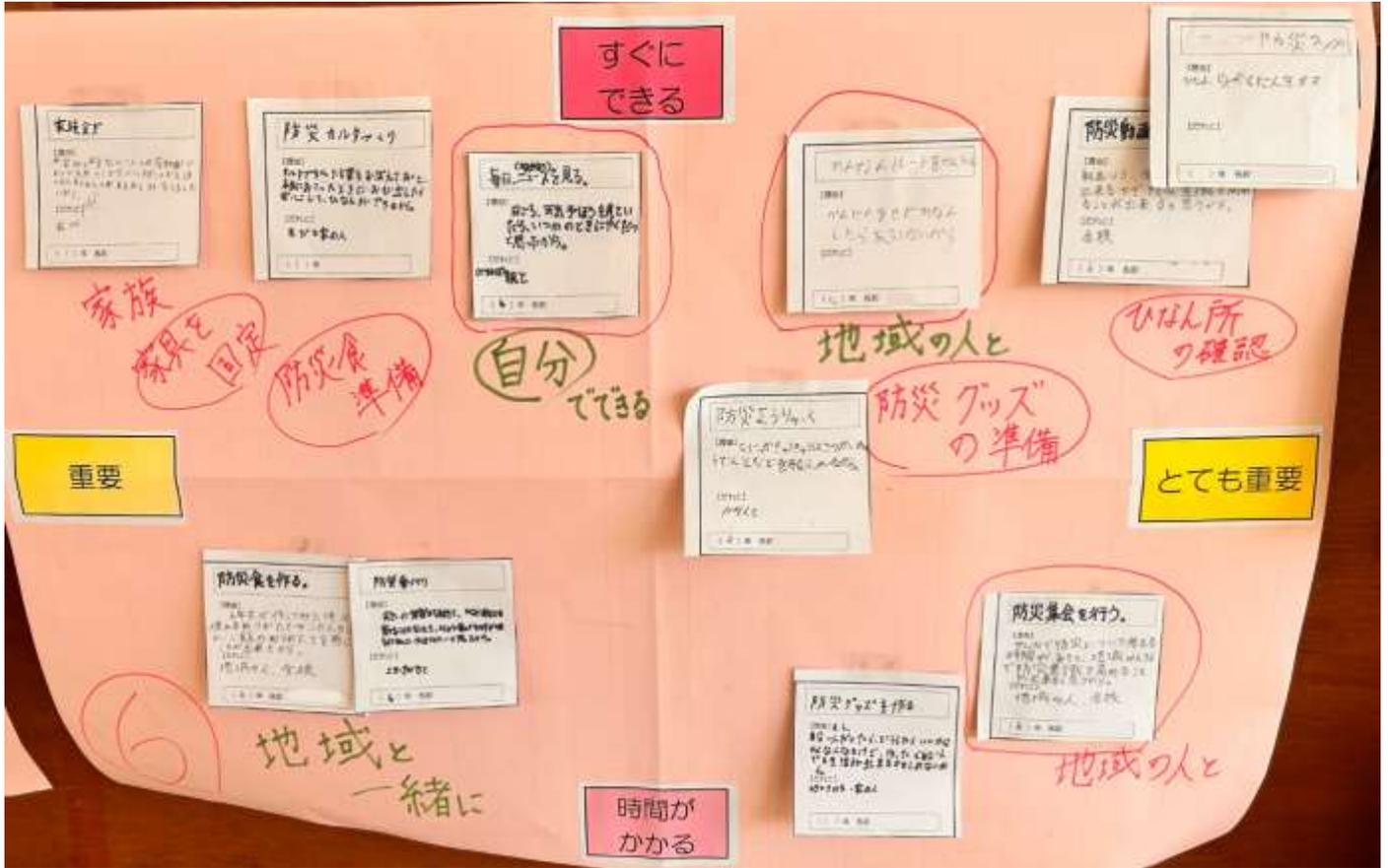
.....

お家の人に、今回の避難訓練で学んだことを伝えて、サインをもらおう。  
（お誘いがよければ、訪問の機会から、お手紙に一言コメントをお送りいたします。）

## 11 注意事項

- (1) 実施日までに確実に訓練の目的や内容・避難方法等について事前指導する。
- (2) 事前に専科教員、養護教諭、学校生活支援員は、予想される対応児童を確認し、学級担任と動きを共有しておく。
- (3) 緊急地震速報の放送が入ると同時に活動を中止し、放送を静かに聞かせる。
- (4) 机の下に隠れるなど、慌てずに、まず身の安全を確保させる。
- (5) ドアの近くにいた場合は、ドアを開けて避難するための通路を確保する。
- (6) 1年生の指導補助、避難の際、手助けが必要な児童への配慮や補助が必要な場合、事前に担当者を決め、動きを確認しておく。
- (7) 避難訓練後の教室への移動は、北校舎1階北出口付近で雑巾を使って泥を落とす。

【「防災を考える日」の協議内容】



【避難訓練振り返りカード】

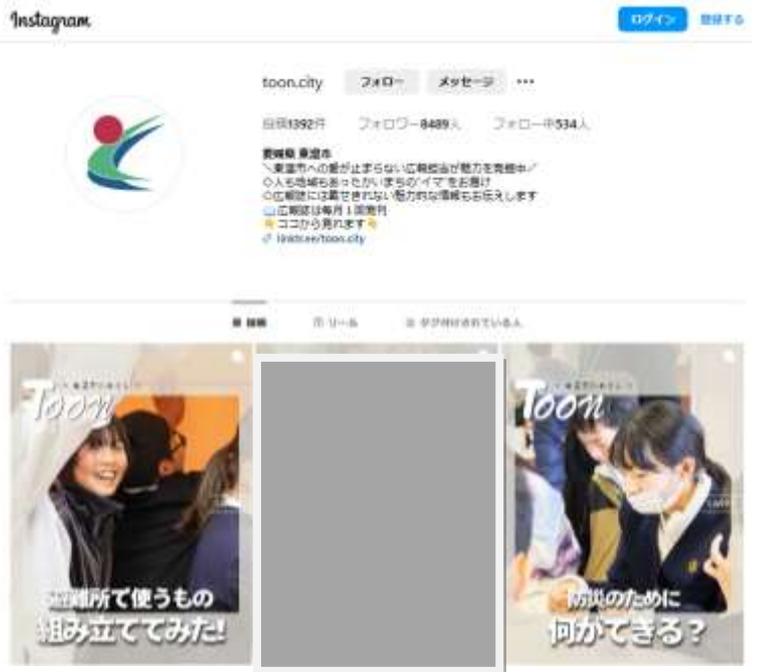


【東温市広報誌】



ユニークなアイデアで防災力アップ！  
地域と行政と一緒に防災を考える

拝志小学校の授業で、児童、地域の人、市消防職員、市危機管理課職員が、災害から命を守るために何ができるかを話し合いました。児童は「地域の人と防災グッズを使った防災キャンプをしたい」「防災カルタを作って、やってみたい」「避難所までの道歩いてみたい」などアイデアを出し、地域の人などと共有しました。児童ならではのアイデアによる地域の防災力向上が期待されます。



出典： <https://www.instagram.com/toon.city/>



## 防災週間 特集号

### <防災週間 1月27日(月)～2月7日(金)>

本校では全校で取り組む避難訓練の他、第4学年の総合的な学習の時間で令和元年から防災学習に取り組んでいます。今年の1月17日は、阪神・淡路大震災から30年という節目であることも踏まえ、全校で防災について考える防災週間を実施しました。ご家庭でも防災について話し合う機会を設けてみてはいかがでしょうか。

#### 防災集会 1月27日(月)

避難訓練の事前指導として、地震が起きたときに、どのように身を守ればいいのかなどについて全校で学習しました。(裏に続く)



緊急地震速報を聞く練習ではエリアメールの音(携帯から流れる音)や、物が倒れたりガラスが割れたりする音などへの耳慣れをしました。次に運動場に逃げるのではなく、まずは頭を守る行動を取り、指示をよく聞いて、その時の状況に応じて避難する大切さを確認したりしました。最後は「さる(机の脚をしっかりと持ち、頭を守る行動)」「ダンゴムシ(机がないときに、頭を守る行動)」のポーズを確認しながら、歌に合わせて踊り、楽しく防災について学びました。

#### 避難訓練 2月4日(火)

今回の避難訓練では、いつ避難訓練があるかを見童に予告せずに行いました。また、停電が発生し、放送機器が使えない中での避難を想定して行いました。緊急地震速報が流れると、見童は事前学習で学んだことを生かし、すぐにそれぞれの場で身を守る行動を取ることができました。また、教師の指示を落ち着いて聞き、素早く避難できました。今回は運動場に避難しましたが、場合によっては耐震化が進んでいる校舎内に避難した方が安全なこともあります。今後様々な場合を想定し、避難訓練を通して、自分の命を自分でしっかりと守る行動が取れるよう、指導を続けていきます。



#### 防災を考える日 2月6日(木)

東温市危機管理課、東温市消防本部、地域の方をお招きし、3～6年生の見童と防災について考える学習を行いました。前半は各学年で学習した、防災に関する内容を紹介し、後半で「拝志地区の防災力を高めるためにどうすればいいだろう」という議題でディスカッションをしました。「命を守るために特に重要なのはどれかな。」など、みんなで真剣に話し合いました。各グループからの提案内容は、来年度取り組めるものから実施していく予定です。行政の方、地域の方と一緒に防災について考えることのできた貴重な機会となりました。



### 【話し合いでみんなが「特に重要！」と考えたこと】

- ・防災会議を月に1回お家の人と実施するといい。
  - ・自分の家が安全な家になっているかを確認める。倒れてきそうな物があったら固定することが大切。
  - ・ハザードマップを見ながら、防災マップづくりをして、避難所や避難ルートを確認したい。
  - ・防災バッグの中身を確認し直したい。必要な物が入っているか、賞味期限などが過ぎていないかをチェックすることが大切だと思う。
  - ・地域の人と日頃から交流すること。いざというときに、協力して避難できるから。
  - ・予告なしの避難訓練を月に1回ほどするといい。自分たちでどう行動したらいいかを考えることができるようになると思うから。
- ★他にも「防災クイズ、防災集会、避難所体験、被災した方の話を聞く」などが出ました。

### 【防災集会・避難訓練後の感想】

避難訓練では、ちゃんと考えて安全な行動ができました。地震が起きたときにも学んだことを思い出してやろうと思いました。(1年 児童)

地震はこわいものと分かってはいたけど、拝志小学校で危ない場所は分かっていなかったのでもっと詳しく調べたいです。(2年 児童)

余震がくるかもしれないから、すぐに安心してはダメだと初めて知りました。先生の指示をよく聞いて避難したいです。(3年 児童)

体育館では、窓ガラスが割れることを考えて行動したいです。いつもと違う場所で、放送を聞いたのですごく緊張しました。(4年 児童)

パニックになっている人がいたら、安心できるような言葉を掛けたいです。そのためにも冷静に行動できるようにしたいです。(5年 児童)

災害が起きても、あわてたり怖がったりするのではなく、周りの状況を把握し、冷静に対処できるようにしたいです。(6年 児童)

### 【保護者の方からの児童へのメッセージ】

いつ地震が起きてもすぐに安全な行動ができるように普段から訓練しておくことはすごく大事だね。自分の命を守るように落ち着いて行動しよう。話してくれてありがとう。(1年 保護者様)

実際に地震が起きたら、パニックになると思うので、訓練のときから意識して、落ち着いて行動することを心掛けてほしいな、と思いました。(2年 保護者様)

家の中の危険な場所を話し合い、地震が起きたときにどう動くかを確認しました。普段からもし地震が起きたらどうすべきかを考えて、心の準備をするようにしましょう。(3年 保護者様)

今後30年以内の南海トラフ地震の発生確率が80%に引き上げられたと報道がありました。学校でこのような取組・訓練をしてくださり、本当にありがとうございます。(4年 保護者様)

外で災害に遭遇したときは、倒れる物がないか周りを確認して避難所や広場などに逃げてね。災害は、いつ、どこで起きるか分からないから普段から考えて過ごしてみてね。(5年 保護者様)

災害は予測することができないので、その場で瞬時にどう行動するかが大切だね。家でも事前にどのような備えをしておけばよいかなどを一緒に考えておきましょう。(6年 保護者様)



本校は、保護者の皆様のご協力により、校区の全家庭に学校だよりを配付しています。学校だよりについてご意見やご要望がございましたら、下記までご連絡ください。

〒791-0222 東温市下林甲1585番地 Tel.964-2015 fax964-3033<担当:教頭>

★ 拝志小学校ホームページ<<https://haishi-e.esnet.ed.jp/>>

(「拝志小日記」を毎日更新しています。子どもたちの活動の様子をぜひご覧ください。)

